

2010/12/10 第42回総会
資料 1-2

JPNICにおけるIPv4アドレス移転に関する 検討状況の報告

2010年12月10日

検討状況

- JPNICにおけるIPv4アドレス在庫の枯渇時期は、2011年後半になると現在予測している

- それまでにIPv4アドレス移転に対して、具体的な対応を行う必要がある

- 対応を決定するためには、以下の課題に対する検討が重要である
 - 在庫枯渇後のアドレス管理のあるべき姿
 - 在庫枯渇後も維持すべきアドレス管理原則
 - 在庫枯渇後にJPNICが提供すべき役割/機能

検討課題

- 在庫枯渇後のアドレス管理のあるべき姿
 - インターネットの安定運用
 - ユーザ全体の利益

- 在庫枯渇後も維持すべきアドレス管理原則
 - IPv4在庫枯渇後のアドレス管理のあるべき姿を実現するために、維持すべき原則
 - アドレス移転とリース概念の整合性

- 在庫枯渇後にJPNICが提供すべき役割/機能
 - IPv4在庫枯渇後のアドレス管理のあるべき姿を実現するために、JPNICが提供すべき役割/機能
 - レジストリデータベースの有効性維持の仕組み
 - レジストリデータベースと経路情報管理との連携
 - 個別のアドレス取引とJPNICとの関係

これまでの経緯

■ APNIC地域における動向

- 2009年11月 APNIC29 APNICにおけるIPv4アドレス移転制度の施行決定
- 2010年 2月 APNICが制度施行

■ 国内における動向

- 2009年11月 JPOPM17 JPNICにおける施行に関する提案、コンセンサス
 - <http://venus.gr.jp/opf-jp/opm17/jpopm17-p3-v1.pdf>
- 2010年 1月 ポリシーワーキンググループからJPNICに対する実装勧告
 - 移転元、移転先両者の合意に基づき、JPNICと直接契約関係のある組織間による分配済IPv4アドレスの移転を認め、移転結果をレジストリデータベースへ反映する

■ JPNICにおける検討体制

- アドレス管理のあるべき姿に関わり、在庫枯渇に向けて切迫した問題でもあるため、理事会としてIPv4アドレス移転にテーマを絞った検討会を行っている

Q&A
